

平成 29 年試験

論文式試験問題

監査論

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子や筆記用具に触れないでください。触れた場合は、不正受験とみなすことがあります。
- 2 試験中の使用が認められたもの以外は、全てかばん等の中にしまい、足下に置いてください。衣服のポケット等にも入れないでください。試験中の使用が認められているものは、次のとおりです。
〔筆記用具、算盤又は電卓(基準に適合したものに限る。)、時計又はストップウォッチ(計時機能のみを有するものに限る。)、ホッチキス、定規及び耳栓〕
使用が認められたもの以外を机上及び机の中に置いている場合は、不正受験とみなすことがあります。試験中、試験官が必要と認めた場合は、携行品の確認をすることがあります。
- 3 携帯電話等の通信機器の取扱いについては、試験官の指示に従ってください。指示に従わない場合は、不正受験とみなすことがあります。
- 4 試験官の指示に従わない場合、また、周囲に迷惑をかける等、適正な試験の実施に支障を来す行為を行った場合は、不正受験とみなすことがあります。
- 5 不正受験と認めた場合は、直ちに退室を命ずることがあります。
- 6 試験時間は、2 時間です。
- 7 試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 8 試験問題、答案用紙及び試験用法令基準等は必ず机上に置いてください。椅子や机の下等には置かないでください。
- 9 この問題冊子は、1 頁から 4 頁までとなっています。試験開始の合図の後、まず頁を調べ、印刷不鮮明、落丁等があれば黙って挙手し、試験官に申し出てください。
- 10 答案用紙は、問題冊子の中ほどに挿入してあります。
- 11 答案は配付した答案用紙の所定欄に記載し、欄外には記載しないでください。答案作成に当たっては、ボールペン又は万年筆(いずれも黒インクに限る。消しゴム等でインクが消えるボールペンは不可。)及び修正液・修正テープ(白色に限る。)を使用してください。
- 12 受験番号シールは、試験開始の合図の後、各答案用紙の右上の所定欄に貼付してください。1 枚目だけでなく、2 枚目以降にも受験番号シールを貼付してください。
- 13 答案用紙の散逸や紛失等を防ぐため、答案用紙の左上をホッチキスで留めてありますので、外さずそのままの状態で作成してください。答案作成に当たっては、答案用紙のホッチキス留め部分を折り曲げても差し支えありませんが、ホッチキス留めを外した場合は、採点されないことがあります。
- 14 問題に関する質問には、一切応じません。
- 15 試験開始後 60 分間及び試験終了前 10 分間は、答案用紙の提出及び試験室からの退室はできません。それ以外の時間に中途退室する場合には、必ず挙手し、試験官が答案用紙を受け取り確認するまで席を立たないでください。
- 16 試験中、やむを得ない事情で席を離れる場合は、挙手の上、試験官の指示に従ってください。
- 17 試験終了の合図とともに直ちに筆記用具を置き、答案用紙を裏返してください。試験終了後に答案用紙や筆記用具に触れた場合は、不正受験とみなすことがあります。試験官が答案用紙を集め終わり指示するまで、絶対に席を立たないでください。
- 18 問題冊子及び試験用法令基準等は、試験終了後、持ち帰ることができます。
なお、中途退室する場合には、問題冊子及び試験用法令基準等の持ち出しは認めません。問題冊子及び試験用法令基準等が必要な場合は、各自の席に置いておきますので、試験終了後、速やかに取りに来てください。

平成29年論文式監査論

(監査論)

(満点 100点) {第2問とあわせ
時間 2時間}

第1問 (50点)

監査基準第三の四では、「他の監査人等の利用」について、次のように定めている。これに関連した以下の **問題1** ~ **問題3** に答えなさい。

他の監査人等の利用

- 1 監査人は、他の監査人によって行われた監査の結果を利用する場合には、当該他の監査人によって監査された財務諸表等の重要性、及び①他の監査人の品質管理の状況等に基づく信頼性の程度を勘案して、他の監査人の実施した監査の結果を利用する程度及び方法を決定しなければならない。
- 2 監査人は、専門家の業務を利用する場合には、②専門家としての能力及びその業務の客観性を評価し、③その業務の結果が監査証拠として十分かつ適切であるかどうかを検討しなければならない。
- 3 監査人は、④企業の内部監査の目的及び手続が監査人の監査の目的に適合するかどうか、内部監査の方法及び結果が信頼できるかどうかを評価した上で、内部監査の結果を利用できると判断した場合には、財務諸表の項目に与える影響等を勘案して、その利用の程度を決定しなければならない。

平成29年論文式監査論

問題1 監査基準の実施基準において、「他の監査人等の利用」という項目が設けられている理由を説明しなさい。

問題2 下線部①~④に関して、次の **問1** ~ **問4** に答えなさい。

問1 下線部①に関して、監査人が「他の監査人の品質管理の状況等に基づく信頼性」を勘案する意義について説明しなさい。

問2 下線部②に関して、監査人が「専門家としての能力及びその業務の客観性」を評価する意義について説明しなさい。

平成29年論文式監査論

問 3 下線部③に関して、監査人は、専門家の業務を利用する場合、その業務の結果を鵜呑みにしてはならず、例えば専門家への質問や専門家の報告書の査閲などの手続を行う場合がある。これらの手続を行う理由を説明しなさい。

問 4 下線部④における監査人の評価に当たって、監査人が重視しなければならない内部監査機能の特徴を説明しなさい。

問題 3 監査報告書には、例外的な場合を除いて、他の監査人等を利用した旨を記載しないことになっているが、この理由を説明しなさい。

平成29年論文式監査論

(監 査 論)

(満点 100点) { 第1問とあわせ }
時 間 2時間

第 2 問 (50点)

次の【状況】に基づき、以下の **問題 1** ~ **問題 4** に答えなさい。

【状況】

甲社(電子部品製造業、有価証券報告書提出会社)の第20期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の財務諸表監査を担当する監査人Xは、当期の監査に当たり次の資料を得た。

<資料1> 甲社に関する基本情報

- ① 甲社は、創業者一族が実質的に支配する、いわゆるファミリー企業である。
- ② 甲社が扱う製品の需給関係及び価格は安定しており、需要の重要な季節変動はない。
- ③ 甲社が属する業界の競争環境に変化はない。
- ④ 各得意先に販売する製品の構成に変化はない。
- ⑤ 甲社は、平成28年5月に、第20期の業績予想として売上高13,000百万円を公表しており、その後修正していない。
- ⑥ 甲社の販売プロセスに関する内部統制は有効に運用されている。

<資料2> 当期の得意先別月次売上高 (単位：百万円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A社	120	130	110	110	120	110	120	130	120	110	110	120	1,410
B社	330	320	300	320	300	310	330	300	310	320	300	0	3,440
C社	210	240	250	230	250	240	230	240	220	230	210	350	2,900
D社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	430	420	440	1,290
その他(20社)	380	370	370	380	370	360	380	370	360	370	380	370	4,460
合計	1,040	1,060	1,030	1,040	1,040	1,020	1,060	1,040	1,010	1,460	1,420	1,280	13,500

<資料3> 当期の得意先別売掛金残高 (単位：百万円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A社	120	130	110	110	120	110	120	130	120	110	110	120
B社	330	320	300	320	300	310	330	300	310	480	780	780
C社	210	240	250	230	250	240	230	240	220	230	210	350
D社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	430	420	440
その他(20社)	380	370	370	380	370	360	380	370	360	370	380	370
合計	1,040	1,060	1,030	1,040	1,040	1,020	1,060	1,040	1,010	1,620	1,900	2,060

<資料4> 得意先(上位4社)の概要

- A社：中堅の家電メーカー、甲社にとっては創業当初からの安定的な得意先
- B社：電子部品を扱う専門商社
- C社：大手家電メーカー
- D社：甲社の創業者一族が100%出資して設立した不動産販売業を営む会社

平成29年論文式監査論

平成29年論文式監査論

問題 1 期末売掛金残高の实在性の監査に際して、A社に対する確認状の送付は行われなかった。A社が確認状の送付先とならなかったことについて、考えられる理由を説明しなさい。

問題 2 B社について、監査上特に留意すべき点を指摘し、監査人のとるべき対応を説明しなさい。

問題 3 C社について、監査上特に留意すべき点を指摘し、監査人のとるべき対応を説明しなさい。

問題 4 Xは、平成29年1月に、D社に対する対応を盛り込んだ監査計画の修正を行った。どのような修正を行ったと考えられるかを説明しなさい。